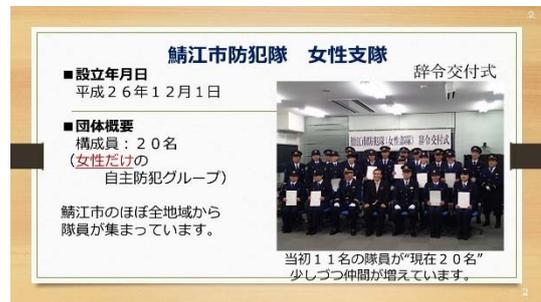
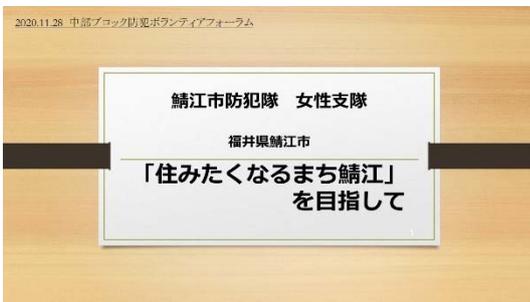


# 鯖江市防犯隊女性支隊（福井県）



皆様こんにちは。鯖江市防犯隊女性支隊長の杉森です。私は会社員として働いており、家庭では2人の子供を持つ母親です。今日は鯖江市防犯隊女性支隊の活動について、皆様に御説明させていただきます。

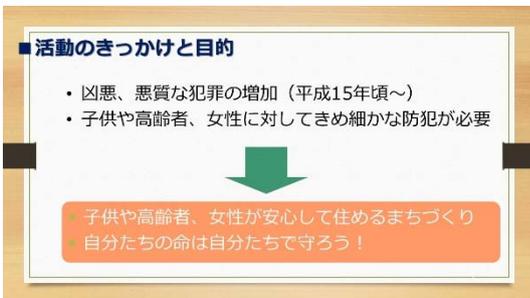
私たち鯖江市防犯隊女性支隊は、平成26年12月1日に設立し、初めは11人からスタートしました。今では少しずつ仲間も増え、20名の隊員が在籍しています。



ここで、私たちが活動する福井県鯖江市について御紹介させていただきます。

鯖江市は、鯖江地区、新横江地区、神明地区など10地区から構成されています。福井県のちょうど中央付近に位置しており、眼鏡、漆器の地場産業を有し、特に眼鏡フレームのシェアは国内トップです。鯖江の眼鏡ブランドは日本のみならず、世界に発信されており、有名俳優や起業家等に広く愛用されております。

また、曾根崎心中、国姓爺合戦など、誰もが歴史の教科書で習ったことがある江戸時代の文豪、近松門左衛門が幼少期を過ごした町でもあります。ちなみに、皆さんは、近松門左衛門の本名を御存じでしょうか。実は、杉森信盛というそうです。聞いた話によると、私の夫の家系を紐解くと、近松門左衛門までたどり着くとか。



鯖江市防犯隊は、昭和30年11月に発足し、当初は男性隊員のみによる防犯パトロールや行方不明者の捜索を中心に活動してきました。しかし、近年の犯罪情勢から「子供や高齢者、女性が安心して住める町をつくる、自分たちの町は自分たちで守る」との意識から、よりきめ細やかな防犯対策

の推進が必要と考え、鯖江市防犯隊女性支隊が結成されました。鯖江市防犯隊女性支隊は、地域や関係団体との協働による防犯啓発や市民の防犯意識の普及高揚を図ること、地域で活躍する市防犯隊員の充足率を高め、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進していくことを、活動コンセプトとしています。

**■活動のコンセプト**

私たちに何が出来るのか。

**「女性目線の防犯活動で、安全で安心して住めるまちに」**

- ・手口が巧妙化する特殊詐欺に対応するため、地域の実情に合った効果的な啓発をすべく心がけている。
- ・「タイムリーな情報を正しく分かりやすく」をモットーに、丁寧に地域の人たち（特に高齢者）に伝達している。



**鯖江市防犯隊女性支隊の活動**

- 防犯啓発チラシ配布
  - ・駅や市内量販店で防犯啓発チラシ配布による防犯広報活動
- 小学生対象防犯教室（学校・地域）
  - ・「自分の命は自分で守る」をテーマに防犯教室
- 高齢者向け防犯教室
  - ・「自分の財産は自分で守る」をテーマに防犯教室
- その他
  - ・レディースガードリーダー

私たちは女性だけで結成された支隊として、女性目線の防犯活動を展開していくことを心がけています。例えば、巧妙化する特殊詐欺の防犯の広報1つとっても、一律の広報活動では、市民の方々は耳を傾けてはくれません。しかし私たちなら、実生活に即した提案を通じて、より身近な話題から市民の懐に入って、啓発活動を推進していくことが可能です。

私たちの活動は大きく分けて、防犯啓発チラシの配布、小学生対象防犯教室、高齢者向け防犯教室、その他、レディースガードリーダーの4つがあります。どのようなものか、1つずつ御説明させていただきます。

**①地域の主要施設におけるチラシ配布による防犯啓発**

◎防犯啓発チラシ配布  
夏休み期間前に、子供向け防犯チラシ配布  
駅や量販店で特殊詐欺防犯チラシ配布  
鯖江署等と連携して啓発活動を実施



**②小学生対象防犯教室（学校・地域）**

◎「自分の命は自分で守る」をテーマに防犯教室  
子供たちの「つれさり」を未然に防止するために

- ・クイズやワークシートを使って考える
- ・実際に体を動かし、もしもの時の対処法を覚える
- ・合言葉「いかのおすし」で大きな声を出す練習

まず、防犯啓発チラシの配布です。毎年、夏休み期間前には、子供向けの防犯チラシを配布し、年金支給日には、駅や量販店などで、特殊詐欺防犯チラシを配布しています。

次に小学生を対象とした防犯教室についてです。自分の身を守れる子供を育てることを意識して、教室を実施しています。もしもの時に備えて、実際に体を動かし、真剣にかつ、楽しみながらトレーニングします。

**◎防犯教室申し込み書**

鯖江市警察本部 防犯課 (学校用)

学校名	学年	人数	実施日時	実施場所	実施内容	実施者	備考

学校での下書き対応訓練スケジュール

**◎小学生向け防犯教室**  
(1) 不審者侵入時避難訓練（学校）

先生・生徒に対して 事前予告なし 先生方の訓練

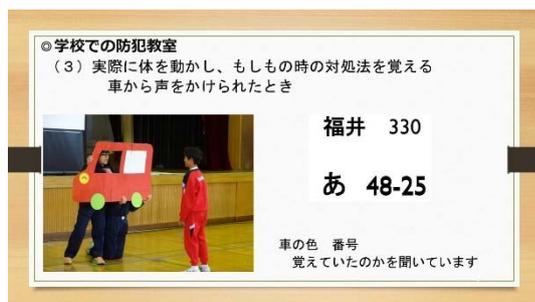
↓

女性は 家族と思われる  
学校の対応マニュアルの見直しに繋がった  
複数侵入した時のマニュアル作成

防犯教室を申し込んでいただく際に、様式に記入していただいています。教室の内容をメニュー表のように示し、要望に即した教室になるよう工夫しています。最初に不審者対応訓練を実施し、

そのあとワークシートを使いながら、対処方法や「いかのおすし」の説明、ロケットダッシュや大きな声を出すトレーニングをします。子供たちはとても楽しみながら、防犯を学んでいます。

小学校の教室では、事前予告無しの不審者侵入訓練を実施します。これは主に先生方の対処要領についての訓練となります。女性は不審者としてなかなか捉えられないことから、先生方も油断して、ついつい学校への侵入を許してしまうことがあり、学校の対応マニュアルの見直しにもつながりました。また、これまでの訓練は、不審者が1人と想定して作られていましたが、複数人いる訓練を実施したこともあります。毎回、侵入方法や役づくりなど、逃げ切ることを目標に綿密な計画を立てています。



これは、不審者訓練の後、最初に使うワークシートです。先ほどの訓練時、不審者が入ってきたことに気が付いたか、先生に伝えたかなどを聞き、その時どうすればよかったのかを考えます。教室では、ワークシートで一度考え、その後に実際に体験することで、自分の身を守るということを意識してもらっています。

実際に外で声をかけられた時に、どうすればよいのかを体験します。車の特徴を覚えているか、反対方向に逃げることができるか、すぐにキッパリと断ることができるかなどを実施しています。このワークシートでは、知らない人に腕をつかまれたときにどうすればよいのかを考えます。その後、実際に体験してもらいます。体を動かすことで児童の食いつきも非常によく、教室はいつも大盛況です。

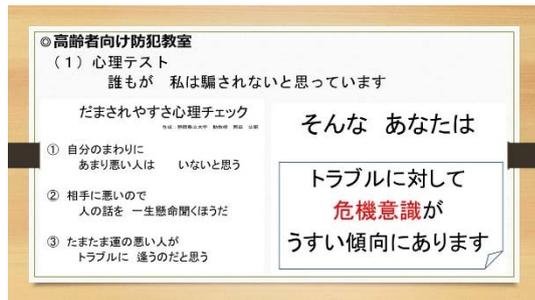
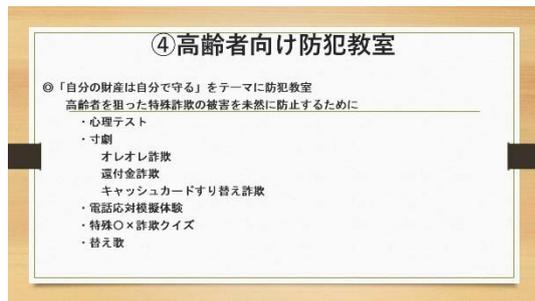


ロケットダッシュは、後から肩を触られた時の逃げ方です。まず、肘を上げると、相手の手が一瞬

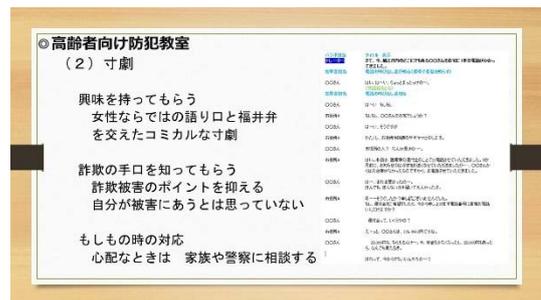
ひるみます。すかさずしゃがんで、思いっきりダッシュです。最後は、大きな声を出すトレーニングです。初めは小さな声しか出ない子も、教室が終わる頃には見違えるように、大きな声が出るようになります。



後日届いたお礼の手紙です。防犯教室はいつもどきどきで、時間も体力的にも厳しいのですが、この手紙が私たちの原動力の1つです。



高齢者向けの防犯教室について説明します。「自分の財産は自分で守る」をテーマに取り組んでいます。心理テストや寸劇を通じて、集中力が無くなりがちな高齢者の方々に、最後まで気持ちを途切れさせないように工夫しています。高齢者向けの防犯教室でも、メニュー表を活用しています。まずは、心理テストから始めます。簡単ですが、ここで危機意識を実感してもらう非常に大切なものです。



私たちの防犯教室では、この寸劇のクオリティに全力を注いでいます。綿密な打ち合わせと、時には鯖江警察署からアドバイスをいただきながら、よりタイムリーな手口を紹介しています。昨年は福井県警察本部の方からも、「よく構成されている」と、お褒めの言葉もいただきました。寸劇は現在、3作あります。

これは、還付金詐欺の1コマです。ではここで私が1人2役で実践します。

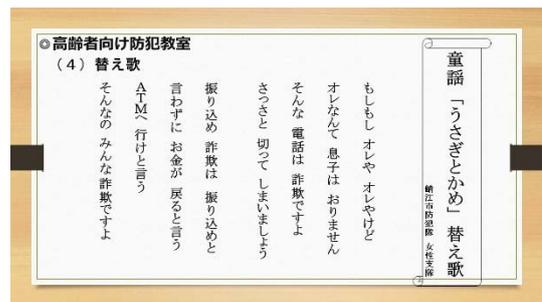
(寸劇)

分かりましたか？これは「オレオレ詐欺」の様子です。騙され役は田舎のおばちゃんから、上品な

マダムと、それぞれ役作りは支隊員にお任せです。

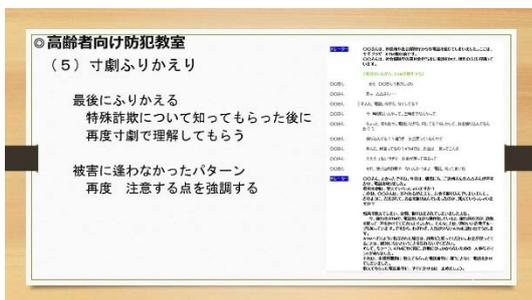


こちらは、最新作「キャッシュカード詐欺盗」です。寸劇の後は、実際に犯人からの電話勧誘体験を行います。シナリオ無しでその都度内容を変えています。また、高齢者の方がどう対応するのかは分からないので、そこは私たちの力の見せどころ。犯人になり切って、電話を切らせないようにします。



〇×クイズで特集詐欺について説明します。ここでもクイズ番組のように効果音を使い、楽しく知ってもらいます。

時には歌を歌って脳を活性化させながら、防犯意識を浸透させています。とにかく、楽しみながら実施することが大切です。



教室の最後には、もう一度、寸劇で振り返りをします。被害に遭わないためにはどうすればよいのかを再度強調します。ここがおかしいと思うことに気がついてもらうためです。

支隊員の能力アップのために、例年の研修会や小道具作り、鯖江署の方を講師として招き、護身術を学んだりします。

**改善点**  
 教室をはじめたころは ホワイトボードを使っていましたが 参加者に合わせてすぐに修正できるように パワーポイントを作成しました。



研修会で反省検討したことは、すぐに活かします。例えば、教室では以前はホワイトボードに紙を貼って説明していましたが、多様化する被害手口などに素早く対応できるように、パワーポイントとプロジェクターを活用するようになりました。

**⑥レディースガードリーダー**  
 福井県レディースガードリーダーとは、女性を犯罪の被害から守るため、主に企業等に在籍する女性をレディースガードリーダーに委嘱し、女性の自主防犯力を高めることを目的としている  
女性のための  
**防犯マニュアル**

任務

- 相談窓口対応  
女性被害の相談窓口となり、アドバイスや警察への情報提供を行うこと
- 防犯講習会の開催  
警察から情報提供を受けた内容を基に防犯講習や護身術の教養を行うこと
- 情報発信  
警察から配信された情報を掲示板やメール等の情報伝達手段を用いて共有すること
- 経営者等への広報員中  
企業の経営者等へ防犯講習実施や防犯設備等について積極的に要望を行い、犯罪の起こりにくい環境づくりを構築していくこと



**レディースガードリーダー講習会の様子**

- 警察官から、管内の犯罪発生状況等の説明を受ける他、護身術訓練等を実施し、女性防犯隊員が情報発信の広告塔となっており、広く、女性犯罪の被害防止等に努めています。



福井県警では、平成 23 年度から、企業とそこで働く女性の防犯対策の強化に取り組んでいます。私たち女性支隊のほとんどの隊員が、企業で勤務する一社会人です。そこで、鯖江警察署の方から定期的に御指導いただいて、犯罪被害から女性を守る「レディースガードリーダー」として、相談窓口、講習会の開催、防犯情報の発信に取り組んでいます。ストーカーやDV など、昨今世間を脅かす犯罪の未然防止に努めています。昨年度は、鯖江警察署生活安全課から警察官を派遣していただき、犯罪発生状況や手口について説明を受けた後、護身術を学びました。家に帰って旦那を実験台に撃退。

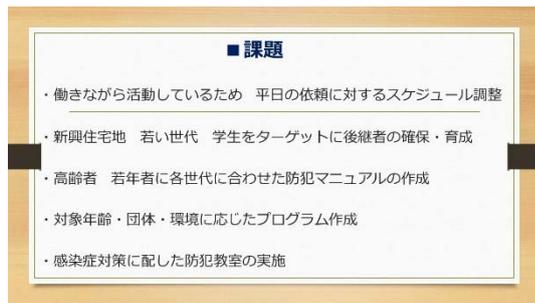
**⑦その他活動 防犯パトロール出発式**  
 鯖江市防犯隊をはじめ鯖江市内の防犯活動に携わっている防犯団体が一堂に会し防犯活動を行うための出発式



**■活動の成果**

- 地域の中心施設で防犯啓発チラシを配布  
→ **地域住民の防犯意識が向上**
- 福井弁の寸劇や替え歌など、見るだけでなく体験することで飽きることなく参加して  
→ **「教えてもらったから詐欺の電話に気を付けた」**
- クイズ形式や実地訓練で「自分の命をよもする」ということを考えるきっかけになった  
→ **「知らない人にあつたら すぐに逃げようと思った」**
- 防犯教室の依頼の増加（充足当時は年4回程度であったが 現在は6回程度）  
→ **口コミで広がり依頼が増えた。また毎年依頼がある町内もある**
- 令和元年度中は、鯖江警察署管内から**特殊詐欺の被害者は1件も出していない。**

鯖江市では例年、鯖江市の各防犯ボランティア団体と鯖江警察署と協働した、一斉街頭パトロールを実施しています。パトカーや青色回転灯を装着した車両が一堂に会し、鯖江市内を巡回します。私たちは出発式に参加した後、量販店で啓発チラシの配布を行います。このような管内のボランティア団体が協働して活動するというのは、県内では鯖江市だけの取り組みです。活動の成果です。啓発チラシを配布、楽しんで参加できる防犯教室だと口コミで広がっていったことで、防犯意識が向上したということです。そして、一番注目していただきたいのは、令和元年度中は、鯖江警察署管内の特殊詐欺の被害が1件も出ていないということです。これが一番の成果だと思います。



やはり活動を続けていくことで、課題は色々出てきます。私をはじめ支隊員は、働きながら活動をしています。そのため、平日の依頼に対応するためには、スケジュール調整が一番難しいということです。また、新興住宅地や若い世代、学生をターゲットに、後継者の確保、育成が必要です。今後は各世代に合わせた防犯マニュアルの作成や、それぞれの環境に応じたプログラムの作成に取り組んでいきたいです。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、防犯教室を一度も行うことができていません。今後は、感染症対策に配慮した教室の実施についても、考えていくことも必要ではないでしょうか。

私たち鯖江市防犯隊女性支隊のモットーは、「無理せず、まずは私たち自身が楽しむ」ということです。住みたくなる笑顔あふれる町、鯖江を目指して、輝く女性パワーで活動を続けていきたいと思えます。御静聴、ありがとうございました。

## 質疑応答

**山本** 鯖江市防犯隊女性支隊、御報告ありがとうございました。私も石川県に来て5年経つんですけど、この鯖江の眼鏡。鯖江の眼鏡ミュージアムに行きまして、もう眼鏡の聖地ですので、鯖江と聞けば眼鏡なんで。ちょっと余談なんですけども。

女性の皆さんがこうやって参加されているというのは、本当に素晴らしいことで、やっぱり地域防犯という、この防犯ボランティアの世界は、先ほどの報告の時にも言いましたけれど、やっぱりこれまでかなり男性中心の活動だったんですね。やっぱり若い人というだけでなく女性も入っていかなければいけない。まず女性が入っていくべきだと私は思っていて、そういったことで活動を続けられているというのは、本当に素晴らしいと思います。

防犯活動において男性の考え方と女性の考え方の違いは、あると思いますか。活動されていて、やっぱりちょっと違うなというのを感じられるところは、おありでしょうか。

**杉森** それほど防犯について違いはないと思うんですが、私たちはやはり母親として子供を育ててきたということがあるので、子供に対する防犯を意識する点がちょっと違ってくるのかなというところはあります。

**山本** 犯罪を予防するとか、考え方の価値観みたいところで、何か違いを感じたりしませんか。

**杉森** 価値観ですか。

**山本** 例えば、やっぱり男性中心だと、犯罪を防ぐという考え方が、やっぱり強さを見せるということになると思うんですね。その辺り、女性はあんまりそういったアプローチを取られないと思いますけども。その代わりに強みとされていることはありますか。

**杉森** 女性は力も無いので、やっぱり護身術を学んだりとかして、自分の身を守るというか。避けていく、どちらかという。犯罪から避けていくような方向性でいくように、子供たちにもあえて

危ない方には行かないように、しないようにする対策を私たちはしていくかなど。

**山本** 強さとか勢いを見せて犯罪者を近寄せないのが、男性のアプローチなんですけれども。そういったリスクを避けるということですね。

**杉森** 男性には勝てないのは分かっている、子供も大人に勝てないのは分かっている、そういったリスクを先に分かってもらったうえで、事前に予防をして避けていくということを中心に、私たちは教室で「こうこうすると危ないですよ」ということを、子供たちにも伝えています。

**山本** そこはすごく重要なポイントかなと思うので、ぜひ今後そういったところを、より前面化していかれてもいいと思います。私が後でちょっと説明をする犯罪機会論なんか、まさにそういう考え方ですので、ぜひ犯罪機会論の考え方を取り入れていかれると、女性ならではというところが、より出てくるかなというふうに思います。あと、色々な活動をされていく中で、犯罪に遭わないということで、特に高齢者のニセ電話詐欺被害防止などを活動で呼び掛けていく中で、財産を守るって何だというふうに気付かれています。やっぱり、だまされないためには何が大事ということでしょうね。

**杉森** そうですね。高齢者の教室とかで特殊詐欺のお話とかすると、大抵の方は「絶対自分はだまされない」、「そんなだまされるわけがない」、「そんなことに引っ掛かるわけがない」と言うんですけど、「そこは違うんですよ」と。「自分はだまされないと思っている人が、だまされているんですよ」という話をするために、分かってもらうために、心理テストとかをすると、「あ〜」とかって皆さん気付いて「だまされやすいんだ」と気付くので「私はだまされない。ではなくて、だまされてしまうんだ。ということを書いてくださいよ」ということはいつも言っています。それで「電話とかも最初から出ない方がいいですよ」とか「下手に出ちゃうと、向こうの人は私たちよりも何倍も頭がいいんだから、絶対に乗せられちゃうので、話さえしなければだまされないんですからね」とかいうことを言います。高齢者の方は、どうしてもお話がしたくなってしまうので。

**山本** そこはやっぱり、女性の防犯ボランティア団体ならではという気がします。犯罪者よりも強くなればいいのか、犯罪者よりも賢くなればいいのか、ついつい男性は思いがちなんです。でもそれはやっぱり無理な話なんで、特に特殊詐欺については。そんなふうに「いやだまされるんですよ」ということを前提に話を進めていかれるのは、非常に大事なアプローチかなと思います。意外と男性中心のボランティアの方は盲点のような気がするんです。そこって実は皆さん自身でも気付かれないかもしれないんですけど、やっぱり明確に男性の防犯ボランティア団体の活動と、女性中心の活動では、違いが出てきているような気がします。「だまされるのが当たり前なんです」という前提から話を進めていくというのが、これからとっても大事ななと私は思ったので、やっぱり女性ならではという部分が、すごく活着しているというふうに私は思いました。

**杉森** ありがとうございます。

**山本** 若い人を呼び込むということで、何か成功体験はおありですか。

**杉森** 若い方と言われても、一番若いので三十代が1人います。

**山本** ものすごく若い方ですね。

**杉森** その方も結局は仲間の方が誘ったんです。鯖江は女性活躍が進んでいて、女性だけの色々なイベントとかもやっていて、そこで知り合った子に声をかけて、1人入ってもらいました。そうすることによって、1人若い人が入ると、またそこから友達をという形で、どんどん入ってくると思いますので、そんな形で、色々なところに出て声かけをして若い人を。なかなか学生というとなし

いところがあるんですけども。鯖江は割と市民活動が活発な町なので、そこでまた知り合った若い人たちにどんどんこれからも声をかけていって、こちらの方にも入ってきていただきたいなと思っています。

**山本** そういった意味では、防犯活動というのは、防犯活動として独立しているのではなくて、やっぱりさまざまな市民活動の一環としてあるということですね。そういう地域活動の1つと位置付けていって、他の活動と歩みをしていくというか、そういったことが結構大事だと思います。防犯というのは、県警や防犯協会の方との共生。公民館は教育委員会なんですね。そこが一緒になっていくことはすごく大事だなと思うんです。そのあたりの公民館や学校の系統と、防犯の活動の領域と、あいのりしていくというか、相互交流みたいなものは、出前講座のほかにどんなものがありますか。

**杉森** 今のところは、どちらかというと出前講座や、学校は校長先生から依頼があって行くことが多いです。まだできて5、6年の団体ですので、そこまではやってないですけど。出前講座に呼ばれることで、今後そういうのも進めていきたいなとは考えています。

**山本** そういった意味で女性団体が、学校や公民館など色々なところと連携をしながら色々な活動されるのは、とっても素晴らしいことだと私は思いますので、ぜひ、これからも活動をどんどんバージョンアップしていきながらやっていただけるといいなと思います。

防犯教室の犯人になりきって色々なことをしていくことは、意外と大事なことで、特殊詐欺以外のそういった子供の活動にしてもそうなんですけども、犯人になりきることで何か気付かれることはおありですか。

**杉森** 色々な犯人になっているので、特殊詐欺もそうですし。子供見守りでも、車の中から声かけをするときがあるんですけども。子供の声かけをする時に、その小学校の地域の雰囲気なんでしょうかね、所によっては、すぐにぱっと行ってしまう子もいれば、一生懸命話を合わせてという所は、皆なかなか話を止めなくて「そこはちゃんときっぱり断って逃げないとだめだよ」っていうような、その地域の雰囲気なのかなとも思ったりします。あとは学校の侵入ですね。それが一番楽しくて。逃げている中で、先生方もここはこうしないとだめですよ、というのがあって。終わった後に校長先生とかにお話をするのがよくあります。

**山本** それは非常に大切な活動だと思いますので、ぜひこれから続けていっていただきたいし、そういった学校での侵入シミュレーションみたいなのは、学校との知恵比べですね。やっていくうちにどんどん色々なことを学んでいくことがあると思いますし、すごく大事な活動だと思いますので、ぜひこれからも続けていっていただければと思います。